

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200098		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム静岡駿河の家		
所在地	静岡市駿河区中野新田396番地		
自己評価作成日	令和2年8月2日	評価結果市町村受理日	令和2年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 9月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>各利用者様のADLに応じてご自分で出来る事は時間が掛かっても行って頂き、やり遂げる達成感を味わい、毎日を元気に過ごす。 又、入居者の皆様により良いサービスを提供する為会議等で話し合いをし、サービスの質の向上に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>幹線道路から少し奥に入った所にある事業所で、周囲は静かで、敷地が広く、散歩や日光浴ができる。施設の中は回廊になっているので歩行訓練ができる。職員間はコミュニケーションが取れており、意見が言いやすく、働きやすい環境である。職員は利用者がADLを下げないように利用者の希望を叶える努力をし、本人ができることは継続してもらえるように見守っている。日々、楽しく過ごせるように係の職員を中心にイベントを考え実行している。今はコロナの為、外出等は行えないが施設内でゲームやぬり絵や能トレ等に取り組んでいる。法人から月に1度レポートが届き、連絡事項や研修のテーマが指定されている。職員は研修テーマを読み合わせ、其々のスキルの向上に役立っている。地域の行事に積極的に参加し、事業所の認知度を広め、近所の住民に声かけをして地域とのつながりを大切にしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根付いた笑顔の絶えない夢のある我が家」という理念を全職員が把握、意識し日々の業務、イベント等実施している	開所時に法人理念を基に施設の理念「地域に根付いた笑顔の絶えない夢のある我が家」を作成し、玄関や事務所に掲示してある。法人理念は月に一度職員は再認識し、会議の時には唱和して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、敬老会や運動会等お誘いはあるが可能な限り参加している	町内会に加入して、回覧板が回ってくるので町内会の行事は把握している。コロナの前には数人の利用者と職員で地域の祭りや運動会に参加していた。地域の防災訓練は館長が参加していた。近くにある幼稚園とは散歩の時に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方々をお招きし、ホームの現状をお話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げた議題について様々なご意見を頂きサービス向上に活かしている	年間6回行われていて、実施月が決まっている。コロナ前には民生委員、町内副会長、近所の住民、家族、利用者、地域包括支援センターの職員が参加していて、意見交換を行っていた。行事の写真を取って、利用者の様子を見せている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手続きの相談等で連絡をする際に近況報告を欠かさず行い協力関係を築くようにつとめている	市の生活支援課と意見交換や相談にのってもらうことが度々ある。地域包括支援センターの職員からは様々な情報を電話で連絡があり、研修の連絡はメールでもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを読み、各職員が理解し、身体拘束をしないケアを意識し取り組んでいる	マニュアルは整備されており、職員全員が委員会のメンバーになっていて、委員会は3ヶ月に1度行われている。研修は年に2回会社から送られてきた資料を基に実施している。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で頻繁に虐待防止について話し合いその防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様については日常生活支援事業や成年後見制度を活用しているので交流や日々の会話などで学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者様、ご家族様のご意見、要望を聞き十分な説明をし理解納得されてから契約をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加して頂き、利用者様、ご家族様、外部の方の意見を取り入れている	事業所で1ヶ月に1度、お便りと請求書、担当職員が書いた利用者の様子を家族に取りに来てもらうようお願いしているので、その時に意見を伺っている。家族から出た意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンスにて意見や提案を出し合い改善する機会を設けている	職員会議は1階2階合同で月に1度、密にならないように日中に行われている。カンファレンスはユニットごとに別の日に行われている。意見は多くあり、参加できない職員は後日、申し送りノートを見て意見があれば館長に個人的に意見を言える関係性が築けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議などで話し合いの場を作ったり、個々の意識を高め、お互いを高め合っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部主催の研修に参加し教え合いながらスキル向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で外部の同業者の方と交流を行い意見交換など行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話を傾聴し安心して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と直接話し、何でも聴きやすい雰囲気作りを心掛けている。また月に一度手紙にてご本人様の様子をお知らせしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様 ご家族様と対話し出来る限り希望に沿えるよう必要なサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ちながら充実した生活を送って頂けるよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で変化があった時は直接お話しをし、共に支えあっている関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出により知人や家族と気兼ねなく会えたり一緒に馴染みの場所に行く事が出来ている	月に1度家族が事業所からのお便りを取りにくるので顔を合わせる機会がある。以前は家族会を行い大勢の人がきてくれた。コロナ前は利用者の希望を聞いて、食事や買い物に出かけたり、競輪場に行ったり個別対応で行っていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を把握しトラブルを起こさないように気配りを意識している。日常生活においても利用者様同士助け合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様、入院した利用者様にも介護者としてフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの要望を聞き、職員会議やカンファレンス等で話し合いを行っている	外出の希望を聞き、少人数で出かけたり、誕生日に食べたいものを作って上げたり本人の意向を把握して、困難な方は表情を読み取り、気づいたことを申し送りノートに記入して情報共有をしている。職員は出来る限り利用者の願いを叶えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話から情報収集をしている。またご家族の方にも今までの生活歴を伺い記録している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で生活パターンを把握して生活リハビリ等を提案している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人様にどのようなケアを希望しているのか尋ねカンファレンスで話し合い、それぞれの意見やアイデアを取り入れている	本人、家族の意見を聞いて、カンファレンスで出た意見を参考にして、医師や訪問歯科医、看護師、薬剤師の意見を聞いて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事や些細な変化等申し送りノートや介護詳細に記入し、職員で情報共有している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で可能な限り、利用者様の要望を聞き入れドライブ、外出等日々の業務にとらわれず急な対応にも心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとのイベントを積極的に行い民生委員や消防との連携も図り、安全で豊かな生活が送れるようにする		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族のようぼうに応じかかりつけ医、提携医に定期的を受診している	現在は24時間365日対応のかかりつけ医が月に2回往診してくれ、その時に看護師、薬剤師も同席している。皮膚科、眼科等の初期の処置や相談にも応じてくれる。人工透析は家族が対応してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様との関わりの中で気付いた事や本人からの訴えや変化を看護師に伝え相談し、対応策を考え支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時ご家族様や病院と情報交換を積極的に行うよう心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い事業所で出来る事を説明しご家族様の意向を伺うと共に検討していくチーム体制をとっている	入居の時に事業所の方針を説明し、積極的な医療行為は行わないが状態変化があった場合、話し合っ対応を協議している。医療体制が変わり24時間365日連絡ができるようになったので終末期の対応を検討できるようになった。	協力医療機関と連携して職員の看取りに関する研修を行い、職員が不安なく対応できるように検討することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で急変時、応急手当の対応について勉強する場を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い避難経路、通報装置の使い方など再確認している。また、地域住人の方にも協力をお願いしている	地震と火災想定で4月11日に訓練を実施している。夜間想定で各ユニット職員が1人に対応する訓練も行なっている。呼びかけで地域の住民が参加したり消防署が立ち会ってくれる事もある。備蓄は3日分、階段の下に保管している。	備蓄リストがないので作成し、災害の初期対応に不安な職員がいるので、全職員ができるように段取りをわかり易く検討してください。停電はいつ起きるか分からないので対応できるように諸機関と連携して準備される事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した言葉使いや接し方をしている。プライバシーに配慮した対応に心掛けており特にトイレ利用時はそっと声をかけるようにしている	会社のAA研修で利用者の呼び方や声かけは行っているが、介護に集中してしまうと利用者の前で名前を出してしまったりする。館長が気づくとその場で注意している。排泄の確認はプライバシーを損ねないようにしている。	職員によってプライバシーを尊重したケアに差があるのが現状である。いかなる時にも利用者の人格を尊重しプライバシーに配慮した対応ができるように期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しの事でも選択肢を設けたり目で見て選んで頂くなど自己決定出来るようまた、希望が叶えられるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを考え本人希望を聞き支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台にヘアブラシ、シェイバーなど常備いつでも身だしなみを整えられる環境作りをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理や食材の好みを把握し、メニューを伝えたり、イベントの時には外食したり仕出し弁当を取ったりして食事が楽しみなものになるようにしている	食材は食材配送業者に注文し、職員が調理している。利用者は出来る範囲で食器拭きなど、職員と一緒に関わっている。誕生日にはちらし寿司を作ったり、おやつを豪華にするなどの工夫をしている。コロナの前は回転寿司等に出かけていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、普段より食事量や水分量が明らかに少ない時は記録に残しその人が食べやすいよう工夫している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや必要に応じて介助し口腔衛生に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にて行える方はそれぞれのペースで、行えない方は排泄パターンを把握し声掛けし、トイレ介助する	自分でトイレに行ける利用者が1、2階にそれぞれ4人ずついるが見守り支援をしている。排泄記録は法人の方針でつけていないが職員はそれぞれの利用者の排泄パターンを把握しているので声かけをしてトイレでの排泄を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をしっかり摂取して頂き排便表の確認をし、必要に応じて与薬の介助を行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが各利用者様のペースに合わせてゆっくり入浴して頂いている	浴室は広く、湯船はタイル張りのでかいので銭湯気分が味わえる。利用者は週に2回以上、基本的には14:00から15:30の間に入浴している。湯船に浸かりたい人、シャワー浴のみの人など体調や希望によって柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内を快適な温度に保ちその都度状況に応じた休息や安眠への支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を間違えなく服薬介助し健康維持できるように支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の要望を考慮し出来る限りドライブ、散歩、カラオケなど希望に合わせて行っている		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に散歩したり行事での外出の際はご家族にも連絡して参加してもらえるよう工夫しているが今年は難しい	現在は施設の敷地内を散歩したり、外気浴が主になっている。コロナ前は2~3人の利用者と一緒に個別支援で外出や外食、買い物に行ったり、家族も参加して動物園や水族館に出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物やストックしておきたい物があれば個々の希望を伺い、安全に管理してあるお金で買い物を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など希望に沿っていつでも連絡できる環境を整え支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには掲示物や写真を貼り季節やイベントでの出来事をソファに座りおしゃべりできるスペースを作っている	リビングの壁には利用者の作品やイベント時の写真が掲示してある。台所のカウンターが広く、職員は作業を行いながらリビング全体を見渡す事ができる。リビングにはゆったりと座れるソファや外には外気浴ができる陽当りのよい庭があり、大きなベンチが置かれ利用者は其々の好きな場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルにならないように座る位置を変更したりし、安全に生活できるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように家族と相談し、利用者様の思い出の品や落ち着いたような物を置き安心できる場所を提供している	天井まであるクローゼットには冬の衣類や掛け布団がしまえ、収納力があるため、室内が整理されている。家族が協力して仏壇や家で使っていた整理ダンスを持ち込み、ダンスの上には利用者が大切にしているものが飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員とコミュニケーションをとり出来ること 楽しみな事を考えて意欲のある自立した生活ができるように支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200098		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム静岡駿河の家		
所在地	静岡市駿河区中野新田396番地		
自己評価作成日	令和2年8月2日	評価結果市町村受理日	令和2年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様のADLに応じてご自分で出来る事は時間が掛かっても行って頂き、やり遂げる達成感を味わい、毎日を元気に過ごす。
又、入居者の皆様により良いサービスを提供する為会議等で話し合いをし、サービスの質の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200098-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年9月3日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根付いた笑顔の絶えない夢のある我が家」という理念を各職員が意識して実践につなげていると考えている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントなどに参加し、交流を図っている。町内会にも加入している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議にて町内会長様ご近所の方をお招きし、ホームの現状をお話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げた議題について頂いた意見等は常に検討しサービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連携を図り良好な関係作りに取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「具体的行為」について全職員が正しい理解が出来るよう年4回の研修や話し合いを行い実践につなげている。ケアの中で身体拘束は行われていない		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受け内部研修でも虐待が起こらないよう注意喚起を行い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する社内研修を受け日常生活支援事業や成年後見制度について学んでいる。必要に応じて成年後見制度を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約では丁寧に説明し十分理解できるように伝えている。利用者様やご家族様の声を聞き納得いくまで話をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が開催されれば利用者様やご家族様に出席して頂き、直接意見を聞いたり職員がその事を取りまとめ発表し、外部者からの意見を取り入れる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員に意見や提案を聞く場を作っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリアごとの地域責任者を通し現場と本部との連携をとり職場環境の整備を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を設け個々のレベルアップを図って職員の意識や能力を確認し課題提供を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や勉強会を通し情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と直接向き合って困っている事や希望等多くの情報を得て安心と信頼を得るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と直接会って話を伺い要望や不安等を解消して頂き信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	集めた情報を分析し、課題を見つけより良いサービスの提供をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で喜びを感じ得るよう得意な事や手伝いや役割を持ち家族の様に支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の何かしらの変化や問題があれば家族と連絡を取り、話し合い解決できるよう支え合っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・外出・外泊等柔軟に対応している(コロナ感染対応策で一時中断)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し良好な関係を築けるよう常に気配りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様、入院した利用者様にも介護者としてフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望をお聞きし職員会議やカンファレンスで話し合っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人とコミュニケーションをとり、情報収集し記録として残している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を把握し一日の流れや生活リハビリの提案をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランやモニタリング作成前にご本人やご家族様の要望を聞き職員で話し合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を申し送りノートや詳細記録に記入し職員間で情報共有している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況の変化に臨機応変に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとのイベントを積極的に行い、民生委員や消防との連携も図り安全で豊かな生活が送れるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に応じかかりつけ医または提携医に必要な応じて受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様自らの訴えや身体の変化を看護師に伝え相談し、対応策を考え支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、ご家族様や病院と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合い事業所で出来る事を説明し、ご家族様の意向を伺うと共に検討していくチーム体制をとっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で、急変時の対応について勉強する場を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的を実施している。地域の方へは推進会議で避難訓練への参加をお願いして近隣の連携を図っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折慣れから言葉使いが雑になる時があるが会議等でケアの見直しを行い改善を図っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定場面を意識して設けご本人の状態に合わせて働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースでの暮らしを意識して取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞き身だしなみの支援に努め、コーディネートに配慮し、「素敵ね」などの言葉かけも大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食材が届き栄養バランスを考えられた食事を提供している。イベント時には要望を伺い特別な食事を楽しんで頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や力に応じ、食事量や水分量など気を付けている		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っている。ご本人の力に応じて介助し食後は個々の義歯を洗浄漂白している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しその人に合ったトイレへの声掛けをしている。出来るだけトイレで排泄し気持ちよく過ごして頂けるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に一度は乳製品を取り入れ、時に腹部のマッサージを行っている。排泄チェック表を用い看護師と相談しながら個々に応じた支援を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回以上の入浴を実施し、利用者様の体調や様子を見ながら臨機応変に対応しそれぞれの入浴用具を用意して行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違うので習慣に合わせて休んで頂いている。ゆっくりテレビを見て過ごされる方もおり、気持ちよく休まれるよう寝具や室温に気を付けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意し効能や副作用 用法等分かりやすく表示し、理解に努めている。服薬時も本人が飲み込むまで確認し飲み忘れのないようにしている。看護職員とも連携し状況の変化に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などからアセスメントしプランに沿いながら得意な事なるべくして頂けるように支援している。ドライブ、歌、踊りなど楽しみにしている事を把握し支援している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様一人一人の意見を聞き利用者様の健康状態や天気の具合を見て臨機応変に対応し、散歩やドライブなどして外出を行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお小遣いの余りを確認し、その余りの中で使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればできるだけ電話や手紙でのやり取りなどを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置など職員同士で相談し不快や混乱がないように配慮している。また、季節感を出す為季節にあった壁面装飾など工夫して利用者様に楽しんで頂けるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で利用者様同士が楽しく仲良くどうできるかを職員同士で話し合いをし、より良い環境を作るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人やご家族と話し合いその後職員同士で相談し、より良く過ごせるように工夫して行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力を把握し出来る事を行って頂いている		